

令和3年度 学校経営要綱

古賀市立花見小学校

I 本校経営の基本構想

1 本校経営の基盤

(1)公教育の立場に立つ学校

- ・日本国憲法、教育基本法及び学校教育法の理念に基づき、学習指導要領に準拠した教育課程、福岡県教育施策・古賀市教育施策・学校管理規則に則る学校教育を行う。

(2)現代社会の要請に応える学校

- ・社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成を目指して教育を行う。
- ・人権尊重の精神の涵養、基礎・基本的内容の定着、一人一人の個性やよさを生かす教育を行う。

(3)地域や児童の実態を生かす学校

- ・本校教育の実績・伝統を尊重し、人権・同和教育を基盤とした新たな校風づくりを行う。
- ・地域のよさを生かした学習を重視すると共に、学校・家庭・地域が連携した協働教育を行う。

2 学校の教育目標

「夢にむかって、はげみ合い、なかよくし、力みなぎる花見っ子の育成」

教育目標に対する校長の見解

【目標に込めた意義】

夢にむかうとは、人生の主体者になり、なりたい自分をイメージできる(=夢とつながる)ということである。決して職業観といった狭義の将来像ではない。生活体験や教育の場等から憧れる大人像を描き、そのために、必要な情報や場を提供してくれる地域社会・家庭・学校に帰属意識を持ち、自己開示しながら支援者となつたり、キャリア教育を通して“どんな大人になろうとするのか”将来へのエネルギーをためていく教育実践を推進したい。

そのためには、健全な発想や身体とつながることが必要である。夢の実現に向け健全な生活モデルを知り、地域・家庭との連携を充実させながら、諸体験の機会に進んで臨み、人生をつくる力・社会を生きる力が満ち足りた(みなぎる)習慣作り・身体作り・発想づくりを実践しつづける必要がある。

一方で、健全な発想は、友達・家族・地域と関心をもってなかよくつながることから涵養されるものと考え。なかよくする(関わりつながる)喜びから自他のよさに気づくとともに、人権を大切に助け合う行動実践を積み上げ、自己有用感を確かなものにする事で、主体的に人生を創造する発想へと導きたい。

最後に、はげみ合い、多様な考えとつながることは、協働的に学ぶよさを体感するとともに、自分の考えを確かなものにする喜びを味わい、さらなる知的欲求を生み出すものと考え。一過性の成果に一喜一憂することなく、児童に寄り添い、学ぶ意欲の向上とともに喜びながら、多様に学び続ける主体者を育てたい。

「夢にむかって、はげみ合い、なかよくし、力みなぎる花見っ子の育成」を教育課程を通して実現するためには、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた地域との連携・協働が一層重要になってくる。そのために、本校の教育目標や教育活動等について、地域と共有するとともに、地域も参画する教育課程を目指す。

3 児童と教師が共に育む資質・能力

～つながり・気づいて築く・二里をゆけ～

(体) 公益性・柔軟性・防災意識・社会貢献

自己指導力・自己管理能力

(心) つながり・主体性・多様性・協調性・人権感覚

人間関係形成能力・社会形成能力

(知) 課題発見・課題解決・試行錯誤・自己決定・創造性

課題対応能力

※『二里をゆく』・・・どんなことでも、自らのこととして取り組む真剣の態度であること。

ミッションであっても、その後は自らの自由意思で更に取り組む態度であること。

【主体性・創造性・自己決定の価値】

※早く行きたければ一人でゆけ。遠くに行きたければ皆でゆけ。(アフリカのことわざ)・・・組織に、多様性やオープンであることは、デメリットよりもメリットの方が大きい。自分とは異なるキャリアや専門知識を持っている人がいれば、自分では気づかなかった視点や方法が得られる。異なるアイデアが組み合わさり、よりよい解決策が見出される。【つながり・協調性・公益性の価値】

4 具体目標

(1) 目指す児童像 ◆本校の教育理念「つながる・気づいて築く」

①【夢とつながる子(なりたい自分)】=目的意識・キャリア教育

自分のよさに気づき、発達段階に応じた将来像や夢を描く子

【具】夢や目標(なりたい自分像)をもち、自分の考えを伝えたり励ましに応えたりして意欲をもつ子

②【力みなぎる子】=体力

健全な身体につながる子

【具】健全な生活モデルを身に付け、目標を持って気力・体力を高める子

③【なかよくする子】=心力

友達や家族・地域に関心をもってつながり、かかわりの中で自己を伸ばそうとする子

【具】自他のよさや人権を認め合い、助け合って行動する子

④【はげみ合う子】=知力

自分の考えをもち、多様な考えとつながりながら積極的に学習する子

【具】自ら関心をもって課題をみつけ、協働してよりよい考えを創り出し解決しようとする子

(2) 目指す学校像

○明るく健やかな学校

- ・挨拶と掃除、生活指導が行き届き、一人ひとりの子どもを大切に育てる学校
- ・いじめ・不登校の早期発見・対応・支援を迅速に行い、楽しく生活できる学校

○学び合う学校

- ・感性や意欲を育む「もの・ひと・こと」を活用し、学ぶ意欲と笑顔にあふれる学校

○地域社会に開かれた学校

- ・つながりを生み出し、「行かせて・応援して、よかった」とPTCAが感じられる学校

(3) 目指す教師像「二里をゆく人」

○子どもの夢や目標に寄り添い、土台となる体力・心力・知力を育てる意欲と指導力のある教師

- ・専門性や人間性を磨き、授業改善やよりよい学級づくりに努める教師
- ・プロ意識を持ち、研修に積極的に参加して自己研鑽する教師

○心身ともに健康で、児童理解に努め、保護者や地域と協働できる教師

- ・PTCAや地域の活動に積極的に参加し、ともに子どもの成長を促す教師

○教育公務員、組織人として、児童・保護者・地域に信頼される教師

- ・サービスに厳正で、接遇態度を持って行動できる教師
- ・教育目標の具現化のために、協働して学年学級経営・校務分掌に参画できる教師

- | | | | |
|-----------|----------|------|------|
| 5 学校教育の基盤 | … キャリア教育 | 人権教育 | 防災教育 |
| 教育活動の基盤 | … 学習デザイン | 協働活動 | 防災活動 |

6 本校教育の課題（令和2年に「学びの地図」から明らかになった課題）

(1)教育課題（児童・教員に解決を期待する課題）

- キャリア教育としての場面に応じた挨拶、発達段階に応じた敬語の使用等のマナーや礼儀の涵養
- 自分を主体として考え、目標や夢（なりたい自分像）を描き、取り組むこと・努力することの選択の場の設定
- 自分の行動・感情をコントロールしながら、つまずいても粘り強くやり遂げる子、友達と切磋琢磨し自己実現しようとする子
- 他者を思いやり、信頼を積み上げ、人間力を高める子
- 教育活動における意思決定の場面、自己決定と遂行・成功体験の保障と発言力の育成
- 学力の二極化、低学力層の解消(評定1の層:国語・算数ともに24～25%)
 - ※算数の評定1の層、12～29ポイント増 /同一児童の令和1年度比
 - ※国語の評定1の層、11～27ポイント増 /同一児童の令和1年度比

(2)経営課題（学校組織として解決したい課題）

- 朝活や学習（学び方）指導、学習規律の共通確認・徹底、生徒指導、キャリア教育、特別支援教育に対する教師の考え方・意識の統一と実践的指導力の向上
- 基本的な生活習慣の徹底に対する家庭教育と学校教育の連携の重要性とその発信、P T C A活動を活用した理解の促進
- 共有化・即応力を基盤として、学年・学校のチーム力で改善に取り組む意識の徹底（分掌のスリム化と重点化、チェック機能の明確化）
- 働き方改革を踏まえた、取組の軽重と発想の転換（行事の精選・時制の整理・会議のスリム化）
- 「ひと・もの・こと」の活用について、地域を巻き込んだ、積極的かつ柔軟な開拓・調整・活用
- 「I C T」を活用した効果的な授業づくりや講師招聘等への活用

7 経営の基本方針 教師として遂行すること

①【キャリア】「夢につながる」

- 夢や目標（なりたい自分像）を描かせ、実現する具体的な方途や努力事項をつかませる。
- 自己決定する場面や称賛される機会を積極的につくり、よさの伸長の実感を持たせる。

②【体】「力みなぎる」

- 健全な生活モデルの定着を図り、各々の目標を持たせて、気力と体力を育てる。
- 奉仕的な活動や授業・外遊び等の運動習慣を通して、教育活動の充実と児童の自己有用感の高揚、情緒の安定を図る。

③【心】「なかよく」

- 人権を認め合い、いじめ・不登校を未然に防ぐ学年・学級集団づくりの取り組みを充実させる。
- 友達や家族・地域のつながりに関心をもたせ、自己のかかわりと成長を意識させる。

④【知】「はげみ合う」

- 自分の考えをもたせ多様な考えとつながる交流や協働して考えを創る授業、環境づくりを充実させる。
- 誰もが成功体験と自己の伸長を実感できる、ユニバーサルデザインの授業づくりを心がける。

II 令和3年度の重点

1 本年度の重点目標 「課題解決に向けて、他者と協働して学習をつくろうとする子どもの育成」

(1)体力:基礎的な体力の養成と新体力テストにおける本校の課題解決に力を注ぎ、体力の向上を目指す。

◆健全な生活モデルの定着と奉仕的な活動・運動習慣の定着による自己有用感の涵養、情緒の安定

○教育活動全般において、自分でできることに積極的に関わらせる自治・奉仕的な活動を実践させ、運動習慣を定着させ、情緒の安定を図る。

○生活習慣指導に対する保護者啓発のための、データ収集や媒体活用、PTCA活動の工夫

◆体の指標:新体力テストにおいて

○本校児童の新体力テストの「課題把握→分析→改善策・実践→評価」（共有化）のサイクル実施と、向上を目指した経年比較。

○体力向上プランをもとに、リズムジャンプ・外遊び等の日常的な運動や体育の授業を通して、目標を達成させる課題解決の意識化。

【力みなぎる子】

(2)心力:いじめと不登校の撲滅に力を注ぎ、規律ある居心地のよいクラスを目指す。

◆徳の指標:積極的生徒指導と、いじめ・生活アンケート及び学級力アンケート等の活用

① 挨拶や敬語等の礼法指導の徹底

・専門部の生徒指導部・キャリア教育部と児童会が連動し、思いやりを持ち、相手意識で行動することを習慣化させる。

・なりたい自分を想定し、支援に応じて自己実現に向かう意識を育てる。

② いじめ事案の100%解消、生徒指導案件の即時性・見通し力の向上と組織的対応

・いじめ事案の担任→学年主任→生徒指導主任・特別支援教育部→管理職による把握を完遂の上、指導の組み立て（展開の全体）と初動（いつ・何を・どこまで）の徹底確認し、学年チーム・生徒指導部・特別支援教育部等の組織で解決にあたり、その情報共有も徹底確認する。

・「報告(事実と見通し、対処の3点セット)・連絡・相談(対処を考えられない場合)」の徹底

③ 不登校・不登校傾向の児童の4月時点からの改善

・早期発見・早期対応及びチーム力による、組織的な力での改善

・児童・教師のアンケート結果の「分析→課題把握→改善策・実践→三か月に一度の評価（共有化）」のサイクルの徹底

④ 関係機関との効果的な連携と確実な進捗の把握

・古賀市青少年センター、あすなる教室、ひまわり教室、家庭児童支援課、SSW、SC、宗像児相等と、学校としての指導・戦略を組み立て（展開の全体像を描い）た上で、連携の詳細を相談し、効果を図る。また、関係機関との進捗状況は、必ず相互把握する。

【夢とつながる子・なりたい自分】【思いやり・人間力・なかよくする子】

(3)知力:ユニバーサルデザインによる基礎的な学力の育成と、自己の考えの表出や交流、協働的な授業づくり・環境づくりを通して、学力向上を目指す。

目標:「課題解決に向けて、他者と協働して学習をつくろうとする子どもの育成」

☆重点目標に関する意味・意義・手立てについて

- ① 「課題解決に向けて、他者と協働して学習をつくろうとする」とは
子どもが自ら問題をとらえて、主体的に思考・判断・表現しながら問題や作品、運動の仕方を追究する過程において、友達、先生、保護者、地域の方と交流し働きかけたり応えたりすることである。
- ② 「学習をつくろうとする」とは
教師が学習環境を整えたうえで、調べたいことや話し合いたいこと、使いたい教具などを子どもが考え、見通しをもって課題解決を進めることである。
- (例)「～と思うから、面積図を使って考えた方がよいと思います。皆さんどうですか。」
「～について調べたいので、〇〇さんに学校へ来てもらったらどうですか。」
「〇〇さんが、台上前転ができるように、マットで前転の練習をしたいと思います。」
「～の様子を表したいので、友達の絵を見て回る時間をください。」といった発言を、上学年(4年以上)の子どもが、自ら発言し自ら学習が進められる授業にすること。下学年(3年以下)では、上学年で上記の姿になるよう、自分たちで課題解決に向けた学習ができる素地を養う。

【はげみ合う子】

◆知の指標:交流活動及び標準学力調査において

①12月実施の標準学力調査…前年度比評定1の児童:10%減へ

○学力低位の子への基礎的な学力の定着

- ・ユニバーサルデザインの授業づくりによる日常(算数)の授業の改善
- ・担外教員や学年習熟度別学習等を活用して、学級を分割した「算数の少人数指導」や、効果的・徹底的な補充指導の実施

②全国調査成果指標…国語:106 算数105以上(R2:国語104、算数108.5)

・家庭学習定着率70%以上(R1 69.8%)

③発言率:60%、発言比=教師:児童=1:3(話し合い活動の時)

- 「必然性がある内容」と「思考・判断・表現の場面設定とモデル」を重視した交流活動
- ・年3回の小中合同研修会と、PDCAサイクル(年2回)
- 自己決定させ、協働的に考えを創出する授業づくり、児童の発言への教師のマネジメント
- ・発問と聞く力の系統性を意識した授業公開(一人年間1回以上)

【夢とつながる子】【はげみ合う子】

2 重点教育目標達成のための経営の重点

(1)キャリア教育として自己や学級のあり方を振り返る場の設定(道徳・学級活動・総合的な学習の充実)

- ・各種アンケート結果の集計・提示(見える化)
- ・教育活動における自己決定の場の設定
- ・具体的な目標・取組の設定→実践
- ・生徒指導部の「キャリア教育部」が意図的指導を立案し、児童会と連携しながら「挨拶できる子」「敬語が使える子」等の積極的生徒指導と実践、評価の場を結び付け、自己指導力を高める。

【夢とつながる子・なりたい自分】

(2)日常的に体を動かすこと、及び体育科の指導の充実(古賀市の共通の取組を通して)

目標:体を動かす楽しさや心地よさを味わい進んで運動する子ども(運動が好き・やや好き95%以上)

- ① 立腰の徹底・継続→姿勢タイムの取組と、継続の工夫(訪問やリモートによるキャリア指導)
- ② 年2回の委員会主体の運動イベントの企画・実施(ドッジボール大会、縄跳び大会等)

- ③ 体育授業における継続的・系統的・発展的なウォーミングアップの工夫（リズムジャンプ）と「クラスの運動遊び」等日常的な運動習慣（週3日以上運動をする50%以上）
- ④ 体力テストの2回設定、課題解決に向けた手立ての工夫と意欲付け
→学年別運動会、秋の体力測定、ドッジボール大会、大縄大会等に向けた期間設定
- ⑤ 体力向上プランに基づきスポコン広場への登録と体力アップシートの活用(100%)

【カみなぎる子】

(3)学ぶための「基礎力」の育成、子どもを引きつけ、楽しく学ばせる授業づくりの実施

短期目標:「つながり」を大切にして学習する子どもの育成

① 基礎力の育成・・・「厳しい子」をつくらぬ覚悟

ア 学習に臨む姿の指導

- ・「花見の学び方」を、系統的に全学年学級で揃える。
- ・学ぶ意味・意義を発達段階に応じて指導
- ・授業時の物がまえ、身がまえの指導の徹底（学習用具の準備+聞き方、姿勢等）

イ すき間時間と支援員も活用し、基礎的な知識を粘り強く指導、及び、見方・考え方を指導

- ・漢字・計算（九九等）の定着
- ・「どこに着目したのか、どう考えたのか」を重点的に指導

② 子どもを引きつけ、楽しく学ばせる授業づくり

ア 実物やG T等の多様な資料を取り入れた授業の工夫

- ・楽しさ、興味深さ、意外性、頭をひねる授業
- ・地域教材の開発や「もの・ひと・こと」の活用

イ 交流活動の充実と活性化を図る取組

※ 内容を受け止める、児童への「聴く」指導

※ ねらいに沿った教員の発問の整理「聞く・聴く・訊く」と、教師による交流や思考のマネジメント

- ・発表の3要素（発表する意欲+発表する内容+発表する技術）を指導
- ・資料の見方の指導を土台とした「からみ（受け答え・関連）がある交流」の重視
- ・驚きや思考のズレを生み出す教材設定・開発、提示

【はげみ合う子】

(4)組織の活性化と教師の指導力の向上を図る(チームとしての力+個人の力の両方を向上)

① 校務分掌を編纂し直し、主体的・創意的なチェック機能を働かせる。(別紙「校務分掌図(案)」参照)

・分掌を知力・心力・体力の3グループに分け各部の主任を置き、各グループにチーフを置く。

知力【研修部:一般研修、主題研修(社会科・生活科・人権福祉学習・歴史・尿尿処理学習)】

心力【専門部:生徒指導・特別支援教育】 体力【専門部:体育部(保健・給食・安全・清掃)】

花見小 分掌チームの組織概要

経営会議(3者会)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	特支	特支
A・P【学年学級・教科】 第4月曜(教科・健康体育)	○	○	○	○	○	○	教頭 主幹	○	○
A・P 知力【研修部】 第1月曜(研推)・第3月曜(学向)	● 副主任	○	○	◎ 学C	○	◎ 研主	○ 児支	○	○
A・P 心力【専門部】 第2月曜(特支・生徒指導)	○	○	◎ 生指	○	○	● キャリア	○	◎	○
A・P 体力【専門部】 第4月曜(教科・健康体育)	●	○	○	●	◎	○	○	○	●

D・C 同学年会・同学年研修会で実施・評価

学年主任者会

② 3部会の機能化

□組織及び取組内容

- ・3部会に学年1名ずつ所属
- ・部会の内容は(別紙「校務分掌の仕事内容図」を参照)

□運営

- ・部会の運営はチーフ◎の指導のもと、CAPDoを回す。A・Pが重要です。

CAPDo では:「現状把握・計測(Check)」から開始するだけでなく、
「改善(Act)」=“改善方針の立案”を意味することになります。

C:同学年研修会で協働実践や子どもの育ちを評価。

A:各部会で、各学年の進捗や子どもの育ちの評価をもとに、改善方針を出す。
P:2ヶ月先の実践内容と方法を協議・確認し、決定。
※その後、チーフとマネージャーで、時機の重なり等を微調整。主任者会に挙げる。

D:同学年会で、各部会の取組を共通理解し、各学年で協働実施。

- ・学年主任者会でも子どもの育ちを共有し、経営と運営の改善を行う。
 - ・ミニ主任者会、ミニ分掌部会は立ち話ミーティングで随時遂行。省力化しながら機動力アップ。
- ③ R2の分掌の反省や、「学びと地図」から出た課題から、各部で「具体的な行動目標・指標」「機動させる人・もの・こと」を設定して、実践し、各部で最終評価を行う。

④ 校内評価の工夫・改善

- ・学校経営案のビジョンが、学年経営案や学級経営案に反映されていること。
- ・自己評価表(学級経営案)の具体的方策を、学年経営案に照らして明らかにする。
- ・学年研修会で、各プラン基にした実践・取組の評価改善を話し、各部会のA・Pへ反映する。
- ・校務運営の提案文書集「花見小月別運営の手引き」による省力化と計画化、AAR(After Action Review)の徹底

校務運営の提案文書集「花見小月別運営の手引き」からの変更は、起案必須。必ず、本年度の取組の振り返りを来年度の起案に盛り込んで皆に提示してから、終了とする。

⑤ 時制の工夫による連携・研修・作業時間の捻出

- ・朝の指導時間、昼の掃除時間の整理による学年内・分掌等の連携強化、研修や作業の充実
- ・授業時間数を鑑みた、高学年のクラブ活動の免除

⑥ 行事の短縮・整理による指導の焦点化・省力化と指導の最適化

- ・運動会などの学校総体の行事を学年行事へと移行させることで、指導の焦点化・省力化、指導の最適化を図る。

(5)研修・研究の面から

① 社会科・生活科の主題研究を継続し、学習指導の充実と学校の特色化を図る。

※H30年度作成の生活科・社会科の研究発表会実践(地域教材)の活用、検証や新教材の開発

② 教師力の向上(前述の2 重点教育目標達成のための経営の重点(1)基礎力育成(2)授業づくり を参照)

(ア) 生活・社会科の単元・授業構成・実施に関する研修の強化

- ・学び方を揃えとともに、校内授業力アップ講座の実施、初任者研修の充実を図る。
- ・学力向上部会の「取組スケジュール」(誰が・いつ・どのように・実行)の証改善サイクルを創る。
- ・校内研、一般研修等の内容を充実し、専門性をいかした研修や実践的指導力の向上を図る。

(イ) 国語・算数の一般研修(学力向上研修)として、授業研を実施して学力向上を図る。

※1～3年の下学年の1学級と4～6年の上学年の1学級で国語・算数の授業公開をし、研修を行う。どちらが国語と算数の授業公開をするかは研修部で決定。この学級については、主題研究の授業公開は実施しない。(学力向上P参照)

(ウ) 校内留学の励行(生徒指導面から、教師の研修面から)

- ・児童同士の、お手本の提示の申し入れ、提供(高学年の授業規律←低・中学年参観 等)

・フリーのメンター&メンティ制:メンティによる指名制の授業・指導の参観(教頭・主幹と相談。)
メンターは受け入れ必須。

・初任者研修の一環として、フリーの校内参観(初任研「作業」時間→初任研指導員・主幹と相談)

(エ) 積極的キャリア教育の視点をもった、学級通信の交換

・教師の目を通して社会を見つめ思いを語る、積極的キャリア教育を含んだ学級通信の創作、その提供や享受による教師同士のOJTやキャリア教育(フリーのメンター&メンティ制)

(オ) 経験5年までの教員の日常的な授業改善チーム「授業力向上プロジェクト」

・校長・教頭・主幹で分担・参観・指導

(カ) 外国語の授業の充実

・外国語専科来校時、学年代表1名が、給食準備・指導時間を活用し、計画的に授業づくりの協議。

(キ) こすもす学級の授業公開(1学級)を一般研修に位置付け、特別支援教育の研修を深めるとともに、こすもす学級の児童について共通理解をし、相互の実践に生かす。

(ク) その他

・学級経営案の工夫、週学習指導計画の充実と効果的な活用を行う。

・学年・学級で学習指導の充実を図り、研修の日常化を推進する。

・各種研究会、県教育センター講座等の校外研修等へ積極的な参加を奨励する。

・自己の教育実践をまとめるとともに、教育論文への積極的な応募の促進を行う。

※初任研終了した次年度(2年目)は「糟屋地区教育論文」を、次年度(3年目)は「県教育論文」の執筆を行うことで、指導力と授業分析力の向上を図る。また、経5年研修を未修了者で、「糟屋地区教育論文」の研修をしていない職員は、論文研修会への参加や論文執筆を奨励する。

【夢とつながる子・なりたい自分】

3 その他の経営の重点(特色ある取組=人と人との関わりに重点を置いた取組)

(1)人権、特別支援教育の充実

○人権教育の面から

- ・古賀北中校区連絡協議会(学力向上部)と古賀北中校区「福岡県人権総合推進事業」の実績をもとに、人権教育の取組を充実させ、自尊感情の涵養を図る。
- ・カリキュラムに基づいた副読本「かがやき」「あおぞら」と古賀市副読本「いのちのノート」を活用し、授業実践研究に努める。
- ・古賀市や校区の人権研修会や古賀北中校区教育懇談会などでの意見交換を通して、地域の方の願いや思いを基に人権教育の取組の推進改善を図る。
- ・「人権の花」運動(ひまわりの種とばし)の令和3年度の順番校としても、地域の人権啓発を率先する。

○特別支援教育の面から

- ・特別支援教育の推進、特別支援学級の経営の方針、発達障害の子どもの状況理解などの研修を行い、特別支援Cの発信のもと、全職員が特別支援教育についての共通理解を深める。
- ・こすもす学級担任と交流学級担任、管理職との連絡・相談を密にして、早期対応(早期把握・早期支援)や保護者からの相談対応を確実実施。特別支援教育コーディネーターを窓口として、関係機関・専門機関との連携を図り、管理職を交えて、組織的に指導と対応を行う。
- ・個別の支援計画や指導計画を作成し、特別支援学級「こすもす学級」の指導体制及び指導の充実に努める。
- ・性教育を発達段階と特性に合わせて、内容と方法を吟味し、実施する。

(2)地域のGTや異学年活動を取り入れた指導の充実

- ・特に地域に向けた、地域との協働の防災教育（フィールドワークやハザードマップ作成、ワールドカフェの開催）や環境美化（クリーンデイ、花見松原清掃、地域貢献活動）等の公益性のある活動を推進し、地域との連携・繋がりを強化する。
- ・ふれあい給食や縦割り清掃等の行事や日常的な異学年交流、ペア交流活動、たてわり班活動を推進し、共感的人間関係づくりをめざす。

(3)外国語活動・国際理解教育の充実を図り、国際感覚やグローバルなものの見方・考え方を体験的に獲得できるような環境整備

- ・ALT活用及び校内外の人材の活用を行う。
- ・校外の外国語教育研修会の受講者を中心とした一般研修を実施し、外国語活動を充実させ、そのための基盤や環境づくりに努める。
- ・国際理解教育の推進を図り、国際的視野をもって活動できるように指導の工夫を行う。

(4)地域の特色を生かした活動の推進

- ・砂の芸術、芝生の育成、松苗の植樹等、地域に愛着を持つ活動の推進及び開発を行う。
※2. 4. 6年では、砂浜や松原に関する昨年度の実践を継続して取組・改善を図る。
- ・「もの・ひと・こと」を活用した豊かな体験活動の充実を努める。
- ・社会科において、地域にある恵まれた教育資源や特性を生かしたカリキュラムを作成する。
- ・1、2年生：生活科の学習における「防災学習」の実施
3～6学年：総合的な学習の時間と社会科との横断的な「防災教育」の系統的な実施
上記学びを生かした、地域集会（ワールドカフェ）の実施と情報発信

令和2年度2月 R3年度で検討

(仮)5学年:校区内のコース別フィールドワーク(2コマ)

観点〔(例)自然災害・水害〕危険箇所発見や気づき

→コース別意見交換会①

→全体交換会と指導助言①

(仮)6学年:校区内のフィールドワーク(2コマ)

観点〔(例)震災に備えて〕危険箇所発見や気づき

→コース別意見交換会①

→全体交流会と指導助言①（福岡県防災士協会のGT支援）

(5)古賀市 GIGA スクール構想に則った活用の準備～リテラシーの徹底と職員活用ルールの作成～

- ・古賀市のICT研修計画に沿って、段階的に活用研修を行う。
- ・主幹、情報担当とで、古賀市のマニュアル（雛形）を周知するとともに、花見小学校の活用マニュアルやルールづくりを行い、職員に周知徹底する。（随時、付加修正し改善。）
- ・上記と平行して、令和3年度の教育課程に照らしたICT活用計画を作成。
- ・管理簿に照らし、校内のICTと周辺機器のすべてを整理・明確にする。